

2014.10.16
vol.34

シネマ・ド・りぶらの コラム・ド・シネマ

映画
を
読む

本日の上映作品

英国王のスピーチ



10月16日(木)

① 10:30 ~ 12:30

② 14:00 ~ 16:00

エリザベス女王の父にして国民から慕われたイギリス国王ジョージ6世は、吃音症に悩みながらも、妻エリザベスの愛とスピーチ・セラピストのサポートで歴史的演説を成し遂げ、国民のリーダーとして、戦争という難局に立ち向かう。

監督：トム・フーパー

脚本：デヴィッド・サイドラー

出演：コリン・ファース

ジェフリー・ラッシュ

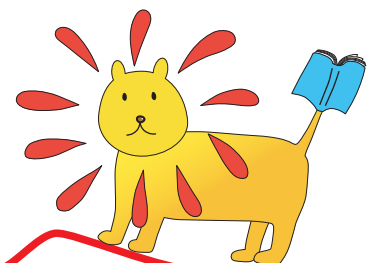
ヘレナ・ボナム＝カーター

上映時間：118分 制作年：2010年

サロン・ド・シネマ

場所：ホールホワイエ

寄付金でお茶菓子を提供しています。
映画の上映前後にご利用ください。



りぶらいおん©LSC

映画を読む

『英国王のスピーチ』

バックingham宮殿に隠された、感動の実話 K.M

さすが2010年度のアカデミー賞で主要な賞を総なめにしたのを手始めに、世界各地の映画賞合わせて63個を得たというこの作品。第2次世界大戦前夜の英国王室の興味あるエピソードをかなり忠実に踏まえた歴史ドラマなのですが、英国の歴史や英国王室について全く知識不足の私でも「愛情や友情に支えられながら、高い使命に向かって困難を克服していく普遍的な人間ドラマ」として、十分楽しめる懐の深い作品でした。

過去のトラウマにより、国王にとっては致命的な吃音症に苦しむアルバート（国王ジョージ5世の次男ヨーク公、のちの国王ジョージ6世）と、医師の免許もなくパツとしない人生を送っていたライオネル・ローグ（オーストラリア出身の型破りな言語療法士）の出会い。もしそれがなかったら、二人の人生はもちろん、イギリスの命運も変わっていたかと思わせる運命的な出会いと、それから始まる二人のやり取りが、英国俳優界きっての芸達者の名演に支えられて、抜群に面白く展開されます。

この二人の関係が、試行錯誤を重ねながら、信頼が芽ばえ、次第に友情と呼べるものになって行く過程の見どころポイントは以下の通りです。

・二人の出会いの場で、ローグが王室に対する礼儀作法に反して、アルバートを愛称のバーティーと呼び、自身のことはローグではなくライオネルと呼ぶよう提案。アルバートが反発するシーン。このファーストネームで呼ぶかどうかの駆け引きは、二人の極めてデリケートな関係を象徴して最後まで続きます。

・ローグに反発しながらも、閉じこもっていた殻から一歩踏み出すアルバートをユーモラスに見せるトレーニングのシーン。

・自分の運命はローグに託すしかないとアルバートが決断する戴冠式リハーサルのシーン。

・二人の信頼関係が最高の効果を発揮するラストのラジオ放送のシーン。ローグはオーケストラの指揮者、ジョージ6世はそのタクトに導かれる演奏者のように見えます。このスピーチがこの映画のクライマックス。手に汗握るほどスリリングに描かれるそのスピーチは、ナチスドイツとの戦争に向かう国民に自らの思いをすべてぶつけたもの。このシーンのバックに流れていた音楽は、ドイツのベートーベンの交響曲第7番第2楽章。感動的なシーンでした。

その他、興味深いエピソード、シーンは沢山ありますが、現在のエリザベス王女と関係のあるシーンが、きちんとセリフ入りで挿入されていますので紹介します。

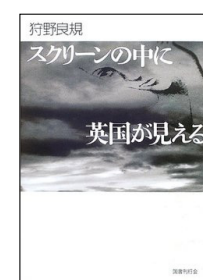
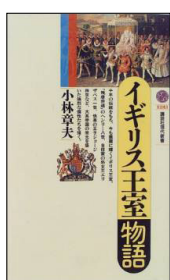
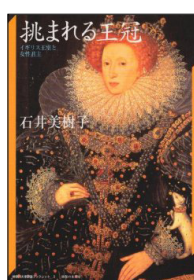
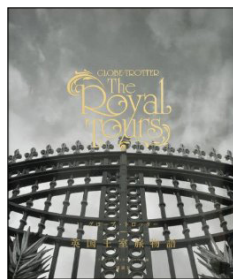
・国王即位が決まって軍服の礼装姿で帰宅したジョージ6世に、娘たちがcurtsey（王侯貴族を前にした女性が片膝をちょっと曲げてする挨拶）をして、「パパー」ではなく「Your majesty」と呼ぶくんだり。娘たちに「陛下」と初めて呼ばれたジョージ6世が、長女のエリザベス（現エリザベス2世）を何とも言えない表情で見つめ、抱き締めて頭にキスします。

・戴冠式が無事終了後、その記録映画をジョージ6世一家がそろって観るくんだり。カンタベリー大主教がエリザベスの質問に恭しく対応します。

・エリザベス2世が大好きな犬「ウェルシュ・コーギー」の登場シーン。ヤマ場のスピーチをするため放送室に向かうジョージ6世に対し、高らかに「ワンワン!」「ワン!」（頑張ってる？）とエールを送っています。

・ヤマ場のスピーチを終え放送室から戻ってくるジョージ6世が、迎えるエリザベスに向かって、「どうだった？エリザベス」。これに答えてエリザベス「最初は危なかったけど、持ち直したわ」と総括。

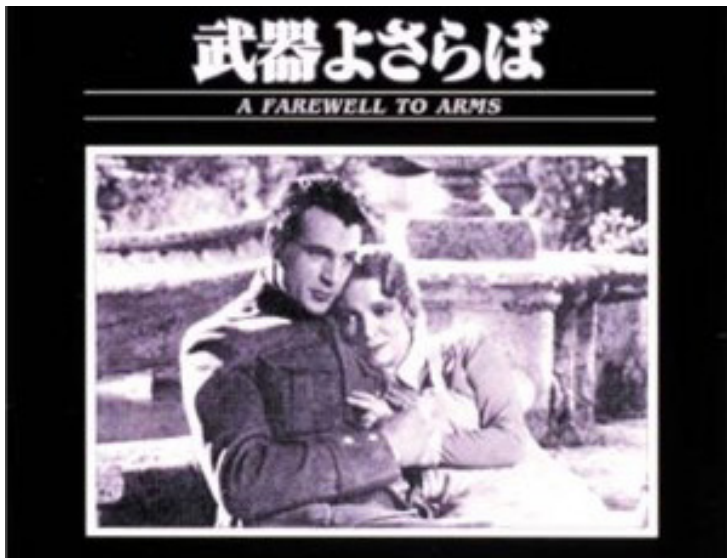
『英国王のスピーチ』 王室を救った男の記録	マーク・ローグ	岩波書店	289.3
『英国王室旅物語』	グローブ・トロッター	講談社	288.4
『英国王室の女性学』	渡辺みどり	朝日新聞社	288.4
『英国王室と英国人』	荒井利明	平凡社	288.4
『英国王と愛人たち』 英国王室史夜話	森護	河出書房新社	288.4
『英国王室スキャンダル史』	ケネス・ベイカー	河出書房新社	288.4
『英国王室物語』 ヘンリー八世と六人の妃	渡辺みどり	講談社	288.4
『ジョージ六世戴冠式と秩父宮』 グローヴナー・スクエアの木の葉の囁き	吉田雪子	新人物往来社	293.3
『イギリス王室一〇〇〇年史』 辺境の王国から大英帝国への飛翔	石井美樹子	新人物往来社	288.4
『イギリス王室物語』	小林章夫	講談社	288.4
『ブダークヒストリー図説イギリス王室史』	ブレンダ・ラルフ・ルイス	原書房	288.4
『肖像画で読み解くイギリス王室の物語』	君塚直隆	光文社	288.4
『挑まれる王冠』 イギリス王室と女性君主	石井美樹子	御茶の水書房	288.4
『王家を継ぐものたち』 現代王室サバイバル物語	ギド・クノップ	書館	288.4
『スクリーンの中に英国が見える』	狩野良規	国書刊行会	778.2
『イギリスを語る映画』	三谷康之	スクリーンプレイ出版	778.04
『アカデミー賞大全甦るあの感動』 スクリーンが歩んだオスカーの記録	SCREEN 編集部	近代映画社	778.2



シネマ・ド・リぶら 次回上映会のご案内

vol.
35

武器よさらば



12月18日(木)

① 10:30 ~ 11:50

② 14:00 ~ 15:20

第一次世界大戦さなか、イタリア軍に従軍したアメリカ人青年とイギリス野戦病院の看護婦が恋に落ちる様を描く。日本公開当時、「武器よさらば」が反戦的でよろしくないと考えられ、内務省当局より「戦場よさらば」に改められ様々な箇所がカットされて公開された作品。「Oricon」データベースより)

監督：フランク・ボーゼージ
原作：アーネスト・ヘミングウェイ
出演：ゲイリー・クーパー
ヘレン・ヘイズ
アドルフ・マンジュー
上映時間：80分 制作年：1932年

『嵐が丘』感想

- ・若い時に見たのですが、こんなにすごい映画だったのかと、改めて感動しました。有難う。
- ・大きなスクリーンが良かったです。DVDとは違う！
- ・愛には本音と建前がある。本当にこんな愛があれば、どんなに世の中素敵でしょう。でも、自分の愛のために多くの人を犠牲にするのはどうでしょうか？
- ・友人から嵐が丘の本をプレゼントされ、一度は映画も見たいと思って居りました。20代の頃と60代の差を懐かしく感じました。
- ・中学生の時、小説を読んだものです。映画を観て改めて感動致しました。感謝です。
- ・大画面だと、登場人物の感情が胸に刺さるように伝わりました。

- ・素晴らしい映画でした。思い出した映画でも何度見た映画でも、素晴らしい映画はいいですね。
- ・館内クーラーで寒かったです。
- ・瑞々しく美しく久しぶりに心温まりました。
- ・3回目のチャンスでした。今回が一番心にひびきました。ほんとにありがとうございました。

今後の上映予定(毎回木曜日)

1月15日 『死刑台のエレベーター』

2月19日 『フラガール』

4月16日 未定

※開催日および上映作品は、変更になる場合があります。

「シネマ・ド・リぶら」の賛助サポーター
受付中！ 年間：1口 2,000円から

託児：500円(各回6名まで)
申込みは、1週間前までに
市民活動センターへ。

図書館のDVD資料だけでは、無料で上映できる作品が限られています。あなたの賛助で、上映作品の幅が広がります。登録は市民活動センターへ。相談窓口：戸松 090-6574-3312